

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社ジェイアール東海ホテルズ
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中村区名駅1-1-4
工場等の名称	名古屋マリオットアソシアホテル
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅1-1-4
業種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	ホテルの経営・運営（客室774室・宴会場17・レストラン8）
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月29日 ～ 令和5年10月27日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 株式会社ジェイアール東海ホテルズ 事業開発部施設課
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-584-1218		

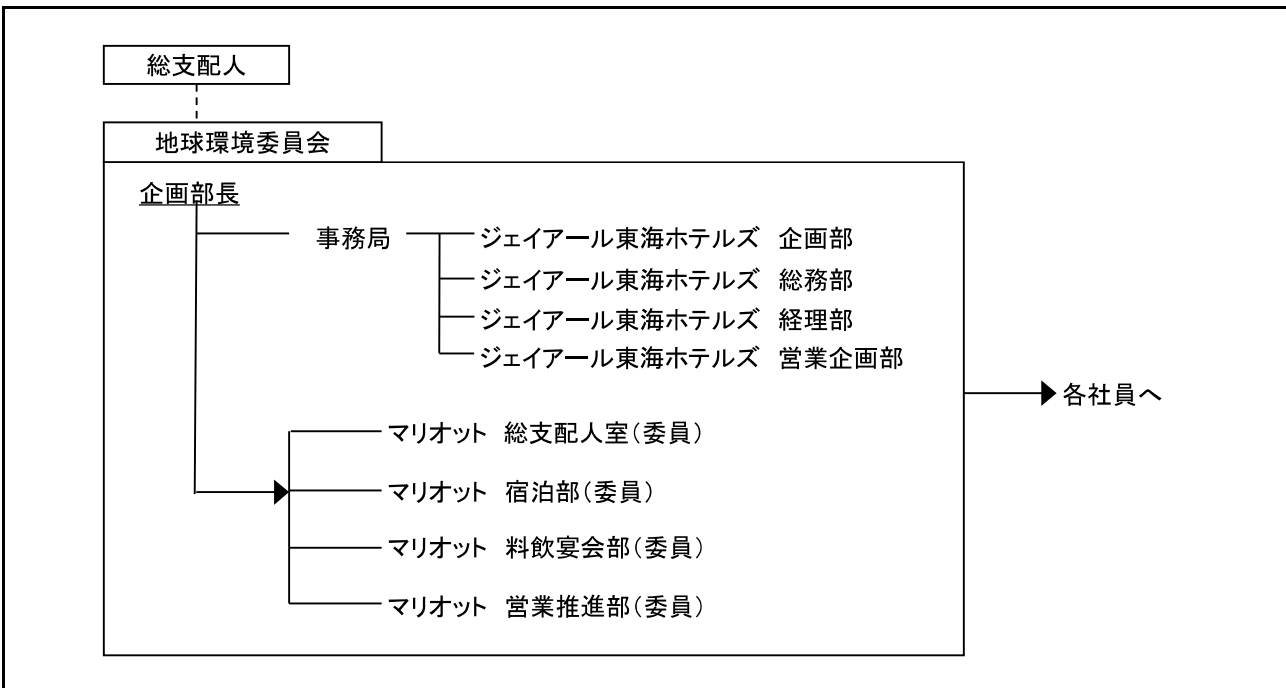
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

地球環境保全への取組を経営の重要課題の一つと捉え、地球環境、資源の保護ならびに環境汚染の予防を推進し、継続的な環境改善を図ります。

- (1) 地球環境の保全活動を推進させる為、活動できる組織・運営制度を整備します。
- (2) 環境関連の法律、規制等を遵守するとともに、必要に応じて自主基準を定めて環境保全に努めます。
- (3) 環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めて、環境保全活動の質の継続的な向上を図ります。
- (4) 環境教育と啓蒙活動により、環境に対する社員の意識向上を図ります。
- (5) 企業活動において、次の項目について積極的に取組みます。
 - ・省資源・省エネルギーの推進
 - ・廃棄物の減量化、適正処理の推進
 - ・リユース、リサイクルの推進

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		11,097	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	11,097	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	10,129	t-CO ₂	9,825	t-CO ₂	11,097	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 9.6	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	0.1119	t-CO ₂ / m ²	0.1085	t-CO ₂ / m ²	0.1226	t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 9.6	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルスの影響で稼働率が低下した令和3年度との比較の為、排出量が増加しているが、影響を受け始めた令和2、3年ぐらいいまで稼働率は回復しており、同年と同程度の排出量である。今年度と来年度の比較で削減状況を見極めていきたい。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

再生紙使用継続 エコマーク表示のある事務用品購入推奨 プリンターのリサイクルトナー使用継続

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

2フロア間の移動は階段移動を促す 夜間のエレベーター稼働台数制限
